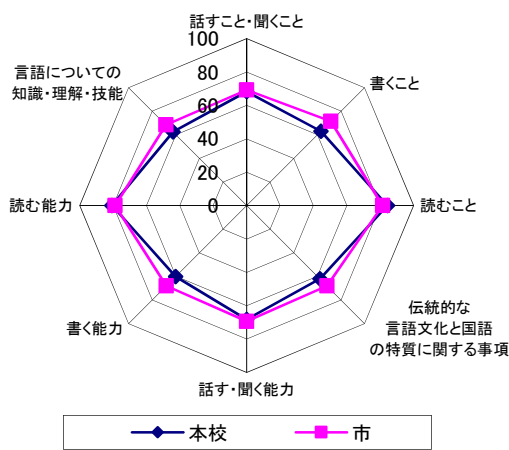


宇都宮市立田原西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	68.3	69.3	73.4
	書くこと	63.1	71.3	74.6
	読むこと	84.4	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	62.1	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	68.3	69.3	73.4
	書く能力	60.3	68.1	71.7
	読む能力	80.7	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	62.4	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

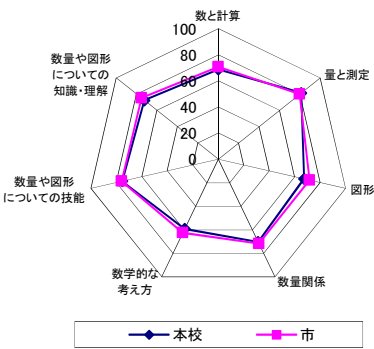
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・市の平均と同等であった。 ○司会者の役割を理解したり話し手の工夫を考えたりしながら、話し合いの内容を聞くことができ、やや市を下回るがほぼ同等であった。 ●話し手の意図を考えながら、話し合いの内容をまとめる問題ができていない。話し合った内容を落とさずに聞き、条件に合わせて記述することが難しい。	・様々な教科で友達のスピーチや教師の話聞いて、要旨をメモする活動を積極的に設定し、大切なことを落とさず聞けるようにする。 ・話し合いで、話し手の意図を確かめながら聞けるように指導する。
書くこと	・全体としては市の平均を下回った。 ○自分の意見を明らかにして、2段落構成で指定された長さの文章を書くことはよくできている。 ●指定された条件に従って考えを文章にすることが難しい。題意を読み取って指定通りに書こうとしているが、条件に合わせた書き方ができていない。？	・様々な場面で、理由や事例を挙げて文章を書く指導をする。 ・文字数や段落の数などの条件を指定して文章を書く活動を、日頃から各教科で取り入れる。
読むこと	・市の平均を上回った。 ○物語文で場面の描写と登場人物の心情を読み取る問題は、正答率100%と市を大きく上回っている。 ●説明文の要旨をとらえ、的確に読み取ることがややできなかった。	・説明文では、指示語や接続語に注意して、筆者の考えやその理由を読み取る指導を引き続き行っていく。 ・物語文では、心情の読み取りだけでなく、文章の構成や表現の工夫にも目を向けて指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・市の平均をやや下回っている。 ○6年生の漢字は市とほぼ同等で、定着しているといえる。 ●敬語(謙譲・尊敬)の使い方が身に付いていない。5年生の漢字も定着していない。	・敬語の大切さを改めて伝え、日常生活の中で使う習慣をつける。 ・文章を書く際に、習った漢字を使って書けるよう繰り返し指導していく。 ・漢字については、定期的な漢字復習テストを行ったり宿題や朝学で繰り返したり、方法を工夫して定着を図る。

宇都宮市立田原西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	68.8	70.8	65.9
	量と測定	81.3	79.9	77.0
	図形	67.5	71.8	74.6
	数量関係	70.4	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	59.3	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	75.5	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	72.3	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

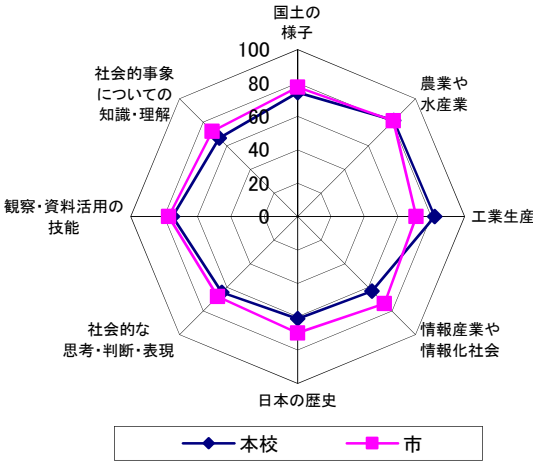
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・平均正答率は、市の平均を下回ったが、その差は昨年度より縮まってきている。 ○小数のかけ算、わり算の計算は、市の平均正答率を上回った。 ●分数のたし算、わり算の計算は、市の平均正答率を下回った。 ●テープ図から小数倍を求める問題や、テープ図から立式する問題については、市の平均正答率と同等か、上回ってはいるが、正答率は低かった。 ●文章問題を理解し、立式したり、理由を記述したりする問題では、正答率が低かった。	・基礎基本の計算の仕方はおおむね身に付いている。今後も繰り返し計算練習に取り組み、定着を図る。また、分数のわり算の計算においては、単に計算の方法を教えるのではなく、面積図にもどって説明し、分数のわり算の意味の理解を図り、定着につなげる。 ・「何倍か」を求める問題は、何をもとにして考えるのかを意識させ、図や数直線に表して立式できるように指導していく。また、2年生のかけ算の学習から、九九を暗唱するだけでなく、かけ算の意味理解が深まるように指導を行う。 ・長文の文章題から立式し、理由を説明することに苦手意識をもつ児童が多いので、普段の授業の中で、式から考え方を推論する活動を取り入れる。その際、「何を求めた式か」、「算出した数値の単位は何か」を考える習慣をつけていく。
量と測定	・平均正答率は、市の平均を上回った。 ○単位量あたりの大きさを求める問題で、混み具合を求める問題では、市の平均正答率を上回った。 ○直方体を組み合わせた図形の体積を求める問題は、市の平均正答率を上回った。 ○速さを求める問題では、正答率が9割を超え、市の平均正答率を上回った。 ●値に0がある数値の平均を求める問題では、市の平均正答率を下回った。 ●ひし形の面積を求める問題では、市の平均正答率を下回った。	・複合図形の面積や体積を求める問題では、どのように求めるか見通しをもち、補助線を引くなど工夫して問題を解くことができている。問題から読み取った情報を書き込むような問題の取り組み方を、他の領域に活用できるように継続して指導していく。 ・平均の求め方や面積の公式など、6年生以前に学習した内容の定着が図れていないので、現学年の内容以前の問題に関しても、繰り返し復習を行い定着を図っていく。
図形	・平均正答率は、市の平均を下回った。 ○合同な三角形を作図する問題や点対称な図形の対応する点を求める問題の正答率は9割を超え、市の平均正答率を上回った。 ●三角形の外角の大きさを求める問題は、市の平均正答率を下回った。 ●五角形の内角を求める問題では、正答率が4割で市の平均正答率を下回った。 ●線対称な図形の対称の軸を求める問題は、正答率が3割で市の平均正答率を下回った。	・三角形や四角形の作図は、様々な条件のもとで描けるよう、授業の中で取り組んでいく。 ・線対称と点対称の図形では、線対称と点対称の意味をよく理解できるように指導を行っていく。その際、図形に線を書き込んで考えるなど、具体的な操作をしながら問題を解決していくことを指導していく。 ・図形の内角や外角を求める問題では、三角形の内角の和が180°であることの復習を行う。また、4年生の角の学習から、継続して角の大小を見極める感覚を養っていく。 ・与えられた式が何を意味するのか理解できるように、図と式に用いられている数値とを関連させながら考える活動を積極的に取り入れていく。
数量関係	・平均正答率は、市の平均を下回った。 ○比例の関係を、xとyを使って式に表す問題は、正答率が9割を超え、市の平均正答率を上回った。 ●文字を使った式が表す場面を選ぶ問題や、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題は、市の平均正答率を下回った。 ●反比例の表を読み取り、表に当てはまる数を求める問題は、市の平均正答率を下回った。 ●資料を見比べ、関連付けて考える問題は、市の平均正答率を下回った。	・文字を使った式については、低学年の○や□を使っている段階から積み重ねをしっかりと行い、問題場面を文字を使った式で表す良さについて授業で感じられるようにする。 ・資料を見比べ、関連付けて考える問題は、算数だけでなく他の教科でも積極的に取り入れていく。また、どのように考えるか一つ一つの段階を踏んで思考する経験を多く積みませたり、問われていることを確認するなど、思考力を育む授業を行っていく。

宇都宮市立田原西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	74.3	77.5	74.0
	農業や水産業	81.5	81.1	73.7
	工業生産	82.1	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	63.1	73.7	63.2
	日本の歴史	61.2	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	64.2	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	75.0	77.3	75.5
	社会的事象についての知識・理解	66.5	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

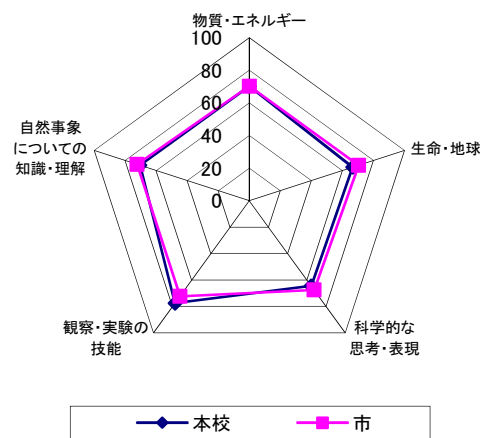
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	・全体としては、市の平均を少し下回った。 ○森林を守る間伐について問う問題では、市の平均を8%上回った。 ●日本付近の海洋名を問う問題で、市の平均を9%下回った。	・授業の中で、日本付近の海洋の名前を定期的に確認し定着できるようにする。 ・日本の気候の特徴について、寒い地域や暖かい地域、降水量の多い地域や少ない地域など情報が多い学習については、プリントなど利用して復習する。
農業や水産業	・全体としては、市の平均を少し下回った。 ○米の生産がさかんな地域について、資料の読み取りの問題の正答率が100%で、全国や市の平均を上回った。 ●日本の食料生産がかかえる課題について、資料をもとに考える問題は市の平均をやや下回った。	・社会的事象などの知識を問われる問題はよくできていたが、そこからどういったことが分かるかといった発展的な問題ができていなかったため、日頃から授業において、「ここから分かることは？」という質問を定期的に行い、考えを深める授業を展開していく。
工業生産	・全体としては、市の平均を上回った。 ○85.7%の児童が、化学工業の製品について理解していた。 ○工業地帯、工業地域の立地について、資料の読み取りが市の平均より4%上回った。	・ニュースや新聞記事などを紹介し、引き続き工業生産に関心をもたせられるようにしていく。
情報産業や情報化社会	・全体としては、市の平均を下回った。 ●身の回りのメディアについて、情報の種類と特色をまとめる問題の正答率が、市の平均を14%下回った。 ●医療における情報ネットワークの利便性について、資料を読み取る問題の正答率が、市の平均を7%下回った。	・メディアの種類による情報発信の特徴を学んだり、身近な情報ネットワーク活用の事例を紹介し、現在の社会事象に関心をもたせられるようにする。
日本の歴史	・全体としては、市の平均を下回った。 ○日清・日露戦争についての問題の正答率が市の平均を6%上回った。 ●大和朝廷による国土の統一の様子について、市の平均正答率を5%下回り、21%の正答にとどまった。 ●殖産興業を理解しているかどうかの正答率が、35.7%で市の平均を28%下回った。	・基本的な知識を身に付けさせるだけでなく、その時代の背景や社会的事象から分かることなどの定期的な復習を行う。 ・映像を積極的に活用し、そこから分かることや要点などをまとめる学習を積極的に行う。 ・記述式の問題では無回答率が高いため、資料を細かく読み取り、自分の言葉で表現することを積み重ねていくようにしていく。

宇都宮市立田原西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	70.2	70.3	69.0
	生命・地球	66.5	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	64.5	67.5	66.4
	観察・実験の技能	77.5	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	70.5	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・平均正答率は、市の平均とほぼ同じであった。 ○「物のとけ方」と「水よう液の性質」に関する設問での正答率が高かった。 ●「物の燃え方」では、ろうそくが燃える前後の空气中の気体の変化についての思考力に欠けていた。 ●「物のとけ方」では、実験の結果が違った理由を推測することが不十分であった。	・実験結果から、どのように変化したのか、自分の言葉でまとめ、クラスやグループで発表する場を増やす。 ・基本的な知識は身についていると思われるので、その知識を生かして、応用問題を解く機会を増やしていきたい。
生命・地球	・平均正答率は、市の平均を下回った。 ○「植物の発芽と成長」や「植物のつくりとはたらき」に関する設問での正答率が高かった。 ●「動物のからだのつくりとはたらき」では、心臓の動きの一つの「拍動」に関する理解が不十分であった。 ●「月と太陽」では、太陽と月の位置関係についての思考力に欠けていた。	・生物の体のはたらきについて、自分で調べる機会を設け、血液が体内をまわる仕組みを具体的に把握する学習を通して、知識・理解の定着を図る。 ・体験的学習と紙面上での表現を結びつけることができるよう、考察の時間を十分に確保し、友達と意見を交換し、議論しながら思考力を育てていく。

宇都宮市立田原西小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・人との関わりを中心とした対話的な授業 ・書く力を高める教科横断的授業の展開	・教師の授業をコーディネートする力を高めるための研修を行っている。 ・国語の「書くこと」の領域を中心に、授業や日常生活の中に書く機会を意図的に位置付け、具体的な方法を指導している。	・話す・聞く能力は、正答率68.3%と市の平均とほぼ同じであった。 ・グループなどの話合いに自分から進んで参加していると回答した児童は、68.2%と市を10%以上下回った。 ・自分の考えを根拠をあげながら話すことができると肯定的に回答した児童は68.2%と市と同等であった。 ・書く能力は、正答率60.3%と市の平均を7.8%下回った。しかし、授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめていると回答した児童は81.8%と市と同等であった。 ・各教科の記述式問題については、無回答が一定数あった。
・児童が分かる喜びを味わうことのできる授業や支援の工夫	・自分自身の到達度を実感できるよう、学習の初めに、めあてを必ず共有する。 ・学習の終末には、本時や本単元の課題に対し、まとめや振り返りを書く時間を設け、学びを言語化することで分かったことを意識させ、分かる喜びを実感させる。 ・個別の課題に対しきめ細かく支援したり、児童の取り組みに対し丁寧に反応したりし、認め励ます機会を増やす。 ・教師の授業力向上を図るため、板書の工夫を互いに見合うようにした。	・「学校の授業が分かる」、「学習していろいろなことが分かったり、できるようになったりすることは嬉しい」と肯定的に回答した児童が、どちらも97.7%と市を上回った。 ・先生は、自分の良いところや頑張ったことを認めてくれると肯定的に回答した児童が97.7%と市を上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・「自分の考えを、根拠（理由）をあげながら話すことができる」と肯定的に回答した3～6年生の平均が、58.6%と市を約10%下回り、昨年度も下回った。教師自身が児童同士の対話を結び付けたり深め合わせたりするコーディネート力を高める研修を次年度も行い、根拠や理由を問い返す発問を繰り返すことで児童が常に意識できるよう、対話的な授業の改善を継続する。

・「書くこと」のポイントを伸ばせずにいるが、国語の基礎基本である「読む能力」の学力テスト等の結果が市を4%ほど下回っているため、まずはここから育てる必要がある。音読や教科書の視写、国語辞典の活用、図書館教育の活性化などについて、全校体制で工夫していく。

・対話的な学習の基本となる人との関わり方や学びに向かう態度を身に付けさせるとともに、落ち着いた学校生活を送るうえで基盤となる自己肯定感を育み、一人でも多くの児童に、教師や友達と共に学ぶ楽しさを味わわせるよう努める。